

1カ月にわたる熱戦! スポーツフェスティバルが開催

REPORT 4



▲グラウンドゴルフ

毎年恒例の庄原市スポーツフェスティバルが6月30日から7月29日までの間、庄原市総合体育館など市内11会場で開催されました。

この催しは、いつでも、どこでも、いつまでも楽しめるスポーツやレクリエーションを通じて、健康づくりや体力づくりができる生涯スポーツ社会の実現を目標に開催するもので、今年で22回を数えます。

期間中は、スポーツ競技14種目、レクリエーション競技6種目が行われ、小さな子どもから高齢者までが、得意の競技で熱戦を繰り広げ、さわやかな汗を流していました。



▲サッカー講習会

高野町の新たな観光スポット誕生 太古の地層「龍見かがら」現る

REPORT 5

高野町岡大内地区に誕生した新たな観光スポット、「龍見かがら」が話題になっています。

「龍見かがら」は、同地区にある龍見橋付近にある、備北層群とよばれる1,600万年前の地層がはっきりと見える壁面の名称で、地元では古くからこう呼ばれていましたが、長年放置されていたため、土や苔、草に覆われて地層がまったく見えない状態でした。

この貴重な資源を新たな観光スポットにしたいと考えた、同地区に住む藤本芳男さんと竜見美鶴さんが、高さ約5m、幅約20mに及ぶ壁面を10日間かけて清掃。岡大内自治会の皆さんの協力も得て、「龍見かがら」は見

違えるようにきれいになりました。

藤本さんは「ここは、歴史ある地層、近代的な下門田大橋(尾道松江線)、りんご畑を一望できる絶景スポット。高野町の新しい名所になるとうれしい」と話していました。



▲龍見かがら

地域で防災意識を高め合う

口和自治振興区が防災講演会&炊き出し実演

REPORT 6



▲炊き出し実演

地域で防災意識高揚と防災対策を学習することを目的とした「防災講演会&炊き出し実演」が7月8日、口和自治振興センターで開催されました。

口和自治振興区が主催するこの取り組みに、地域住民約80人が参加しました。

防災講演会では、広島県社会福祉協議会の坂原邦彦

さんが「災害時に備えた地域づくり、まず何からは始める?」と題した講演や、清水孝清口和支所長、和田聡弥三次消防署口和出張副所長からゲリラ豪雨災害の対応や災害復旧状況などについて報告が行われました。

これと同時に進行で口和自治振興区女性部による炊き出し実演が行われ、10人の女性部員が100食分のカレーライス・漬物を実演調理。講演終了後に参加者全員で試食しました。

参加者からは「いつ災害が起こっても対処できるように、家庭でも災害に備えておかなければいけない」など活発な意見が出され、防災意識を高めていました。

今年も無事に育成・放蝶 総領町でオオムラサキ放蝶会

REPORT 1



▲みんなで一斉に放蝶

総領町黒目の和田賢壮さん宅で7月9日、オオムラサキの放蝶会が開催されました。

和田さんは、環境省のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されている大型の蝶「オオムラサキ」を保護しようと、7年前から雨よけハウスを設け、オオムラサキを育成しています。

今年で3回目となる放蝶会に総領保育所の園児19人が参加。

まずは、オオムラサキを観察。木やハウスの網に止まっ

ているところを夢中になってルーペを覗き込んでいました。観察後、自分で捕まえたオオムラサキを手に持ち、先生のかげ声で一斉に空へ放蝶。飛び立つオオムラサキを、姿が見えなくなるまで目で追っていました。

子どもたちは「大きな羽や蚊取り線香のような口が面白い」「オオムラサキを捕まえるのが楽しい」と喜んでいました。

和田さんは「オオムラサキを育てるのは、みんなに喜んでもらうため。子どもたちが楽しんでくれてとてもうれしい」と目尻を下げていました。



▲夢中で観察する子どもたち

広響フルメンバーが聴衆を魅了

ひろしま平和発信コンサート2012リレーコンサート

REPORT 2



このコンサートは、音楽を通じて世界平和のメッセージを広島から全国に発信し、国際拠点ひろしまの創造を目指して行う「ひろしま平和発信コンサート」のプレイベ

「ひろしま平和発信コンサート2012リレーコンサート」が6月30日、庄原市民会館で開催されました。

ントとして、県内各市町で開催されるものです。

庄原市では、広島交響楽団と指揮者円光寺雅彦さんによる2部構成のコンサートが行われ、700人を超える聴衆が会場に詰め掛けました。

第1部は、モーツァルト作曲の『フィガロの結婚 序曲』、岡山県在住の中学生ヴァイオリニスト福田廉之介くんとジョイントで、サン＝サーンス作曲の『ヴァイオリン協奏曲第3番』、第2部では、ドヴォルザーク作曲の『交響曲第9番「新世界から」』が演奏されました。

来場者は、広島交響楽団のフルメンバーによる壮大な演奏に酔いしれていました。

住宅デーで施設がリフレッシュ

広島県建設労働組合12地域連合庄原が奉仕活動

REPORT 3



▲収納棚がリニューアル(庄原地域)

全国統一「住宅デー」の6月25日を中心に、市内各地で建設労働組合による技術奉仕活動が展開されました。

この活動は、同組合12地域連合庄原が組合員の仕事や技術を知ってもらい、地域の安全・安心に貢献しようと取り組むもので、今年庄原・西城・東城・口和・高野地域で一人暮らしの高齢者住宅や保育所の修繕などを行いました。

庄原地域では8人の組合員が参加し、永末保育所の

雨樋や遊具の修繕、収納棚を作成。東城地域では、10人の組合員が八幡・田森保育所、旧帝釈保育所の3カ所に分かれて調理室の排水設備や調理台の改修などに汗を流しました。

8月から東城子育て支援センター帝釈教室として開設される旧帝釈保育所は、園舎を模様替え中で、既存の用具が別のものに生まれ変わるなど、休んでいた施設が再び輝きを取り戻しました。



▲日頃の技術を発揮(東城地域)

中国地域づくり等助成事業で大賞を受賞 高野地域づくり未来塾

REPORT 10



中国地方地域づくり等助成事業報告会が6月30日、広島市のゲバントホールで開催され、高野地域づくり未来塾がみごと大賞に輝きました。

この報告会は、中国建設弘済会が行う補助事業を活用し、地域づくりに取り組んだ24団体の中から選ばれた10団体が、昨年度行ったそれぞれの活動を報告しました。

高野地域づくり未来塾は、高速道路の開通をきっかけに高野地域に多くの人を呼び込むため、「来てみんさい

高野まるごと体感・体験プロジェクト」を実施。一年をかけて取り組んできたワークショップの開催や体験メニューの実践、農家民泊の推進やモニターツアーの実施などを発表しました。

発表内容の分かりやすさに加え、その成果やこれからの目標も明確な点が評価され、一般審査員をはじめ、特別審査員からも多くの票を得て断トツの1位となりました。

発表者の馬船純一さんは「これほどの高い評価を得たことは大変うれしいと同時に、これからの取り組みに身の引き締まる思いがする。これからが正念場」と表情を引き締めていました。

また、これまで大賞を受賞した東城町の「東城まちなみ保存振興会」ほか7団体が、その後の取り組みを報告しました。



▲受賞を喜ぶ馬船さん

地域の未来に伝える“あるもの”探し 実践「地元学講座」開催

REPORT 11



▲調査をもとに地域住民の方に地域づくりの提案

西城町で7月21、22日の2日間、「地元学」実践講座が開催されました。

「地元学」とは、住んでいると気づかない地元にある「あるもの」の価値を、地元の人と外から来た人が一緒に発見し、地域の未来について新たな提言を生み出すワークショップです。水俣市で生まれた「地元学」は、水俣市が公害から復興し、再生していく過程で大きな役割を果たした手法で、中山間地の地域づくりにも有効と注目されています。



▲地域の産業や生活についてインタビュー

参加者20人は、地元案内人とともに地域の自然や史跡を巡り、古老やもの作りの実践者、生活文化の伝承者にインタビューを行い、講座の終わりに開催された発表会で、大屋・八鳥地区の代表に、地域づくりの提案と情報をまとめた絵地図を手渡しました。

大屋・八鳥の案内人を務めた皆さんは「たくさんの地域づくりのアイデアをどう生かすかを考えたい」「さまざまな分野の人たちとのネットワークを大切にしていきたい」と話していました。

幅広い帝釈峡の魅力を堪能 帝釈峡ウォーク

REPORT 7

晴天に恵まれた7月15日、国定公園帝釈峡で「帝釈峡ウォーク」が開催されました。



▲チェックポイントでスタンプを押してもらう参加者

この日は、一般参加者コースの「かわせみコース（約5km）」と神龍湖トレイルセンターから遊歩道迂回

路を歩く「はんざきコース（約9km）」が用意され、広島市や福山市をはじめ市内外から約300人が参加しにぎわいました。

参加者は、鍾乳洞「白雲洞」の中でコウモリに出会ったり、国天然記念物「雄橋」の川原で水遊びしたり、珍しい山野草や水量が多く迫力のある断崖を眺めたりと、帝釈峡の魅力に触れながら思い思いのウォーキングを楽しみました。

午後からは、東城中学校吹奏楽部や市内のデュオOZの演奏を聴きながら、川魚の塩焼きや山菜炊き込み寿司などの地元の味を楽しみ、自然いっぱいの帝釈峡を丸一日満喫していました。

自分の思いを英語で発表 第8回中学生による英語スピーチ大会

REPORT 8

庄原ロータリークラブ、しょうばろ国際交流協会、市教育委員会が共催する「第8回中学生による英語スピーチ大会」が6月10日、庄原市田園文化センターで開催されました。

市内7中学校から10人の生徒が参加し、体験学習で学んだことや家族の仕事のこと、地域の伝統芸能について感じたことなど、それぞれの思いを英語のスピーチを通して披露しました。

生徒たちは家族や中学校の先生に見守られる中、堂々と発表。その中から、高野中3年の青木樹生くん、口和中2年の河野准一くん、比和中3年の菅原大高くんの3人に優秀賞が贈られました。



▲参加者全員で記念撮影

地域がつながる笑顔が集う 比和のつどい たなばたまつり

REPORT 9



毎年恒例の「比和のつどい たなばたまつり」が7月6日、比和文化会館で開催され、比和地域の住民ら180人が参加しました。

当日、舞台には、比和保育所の年中・年長の園児11人、比和小学校の1～3年生29人が登場し、歌や演奏、踊りを披露。毎年この集いを楽しみにしているという地域住民も、園児や児童の出し物に手拍子や合いの手で参加しました。

出し物の中には、昔ながらの「わらべうたメドレー」や「手遊びうた」もあり、子どもたちが観客と触れ合う姿も見られました。

子どもたちのかわいい出し物に会場は笑顔に包まれ、笑い声の絶えない素敵な七夕となりました。



▲笑顔いっぱいの会場